

鳥取駅周辺再生整備計画(素案) 概要版



4. 駅まち空間整備に向けた課題

本計画を通じて、麒麟のまち圏域・鳥取市・駅まち空間の各区域ごとに解決に寄与することができる課題を以下のとおり整理しました。

(1) 麒麟のまち圏域における主な課題

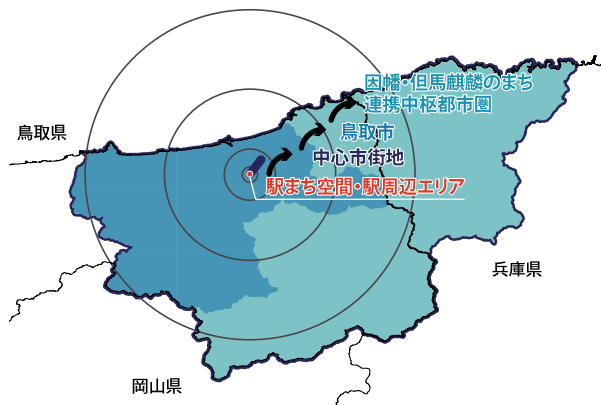
- ・少子高齢化・人口減少に伴う地域経済の停滞、および駅まち空間を核とした圏域全体の経済活力向上への対応
- ・駅を中心とした拠点性の低下や都市のスポンジ化・空洞化等の中心拠点機能の減退に対する都市の再構築

(2) 鳥取市・中心市街地における主な課題

- ・地域に対する愛着の低下や定住人口の減少への懸念に対し、市民が誇れる魅力あるまちづくりの推進
- ・まちなかの賑わいの希薄化、および市民が住み続けたい・戻ってきたいと思える恒常的な賑わいを生み出す拠点不足への対応

(3) 駅まち空間における主な課題

- ・駅周辺エリアやまちなかエリア間のつながりの希薄化を解消し、商店街や観光拠点との連続性、ネットワーク性の確保
- ・山白川沿いの空間が持つポテンシャルを十分に活かしつつ、駅前広場と既存機能が調和した人が憩える質の高い居場所不足への対応



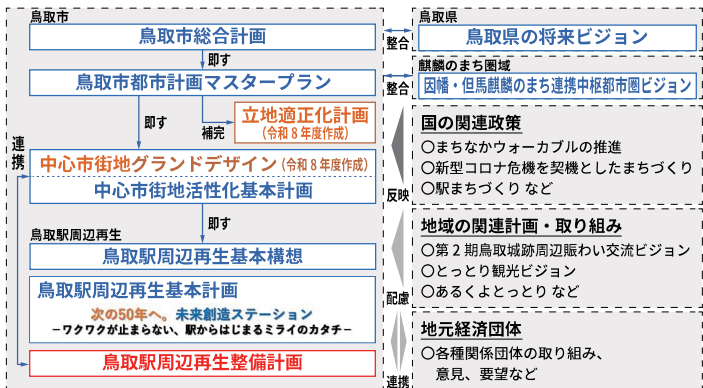
1. 本計画の目的

鳥取駅周辺再生整備計画（以下、「本計画」という）では、鳥取駅周辺再生基本計画（令和6年6月）の目指す将来像の実現に向けて、具体的な空間デザインや事業計画等を示しています。

本計画では、鳥取駅を中心とした駅まち空間において、子育て世代が憩い交流できる空間、高齢者や障がい者など、誰もが移動しやすい交通広場、頻発する災害への備え、様々な市民の憩い所や居場所となる多機能な空間・施設の創出を図ります。

2. 計画の位置づけ

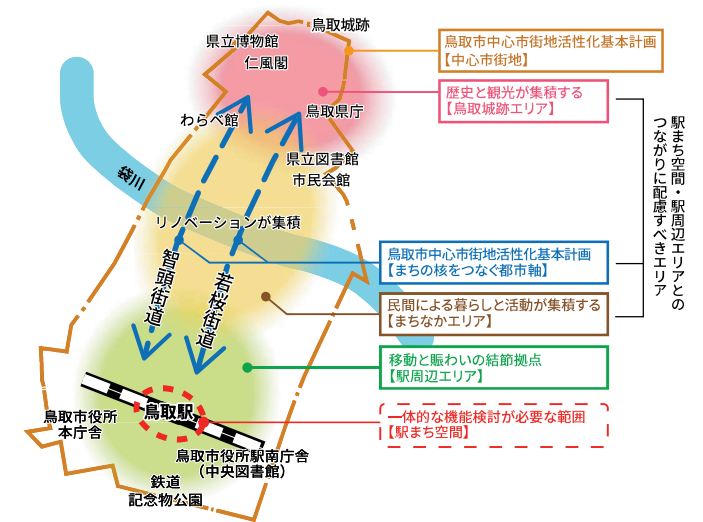
本計画は、「鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）」及び「鳥取駅周辺再生基本計画」に即して、具体的な整備計画を位置づけるものです。なお、中心市街地グランドデザインは中心市街地活性化基本計画（第5期）の中核となる中心市街地全体の将来像を描き、本計画と相互に連携するものとして位置づけています。



3. 計画範囲等

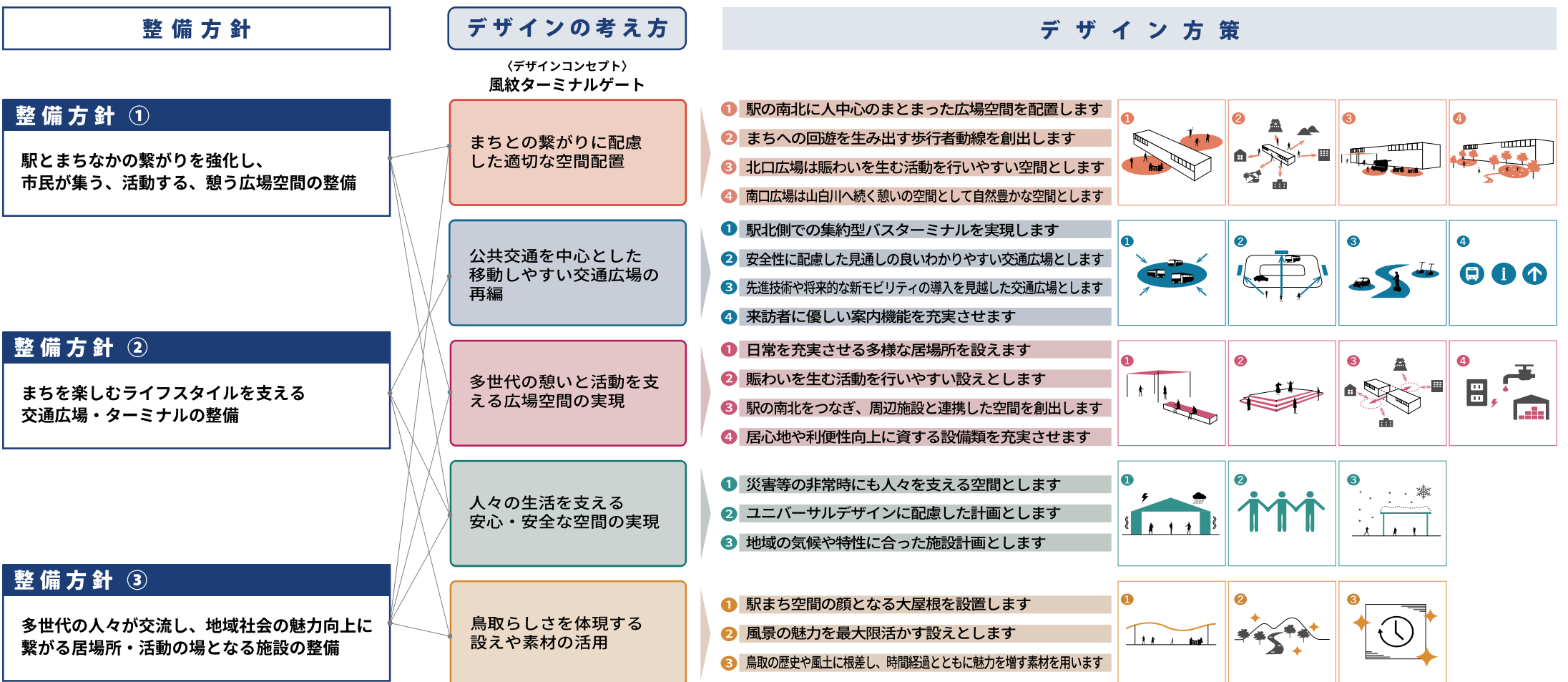
鳥取駅を中心とした「駅まち空間」を対象としつつ、「駅まち空間」の再整備に伴う波及効果や、さらなる地域活性が望まれる鳥取市中心市街地活性化基本計画に基づく中心市街地全体との繋がりについても十分に配慮するため、以下のとおりエリアの設定を行いました。

中心市街地	鳥取市中心市街地活性化基本計画に基づく、鳥取市中心市街地区域
駅周辺エリア	駅まち空間と一体的な整備やまちづくりが特に必要となる範囲
駅まち空間	駅前広場（北・南）、交通広場（北・南）バスターミナル（北）、複合施設等の整備範囲に加え、周辺街区や街路等を含む一体的に必要な機能の配置を検討する範囲



5. 整備方針／デザインの考え方

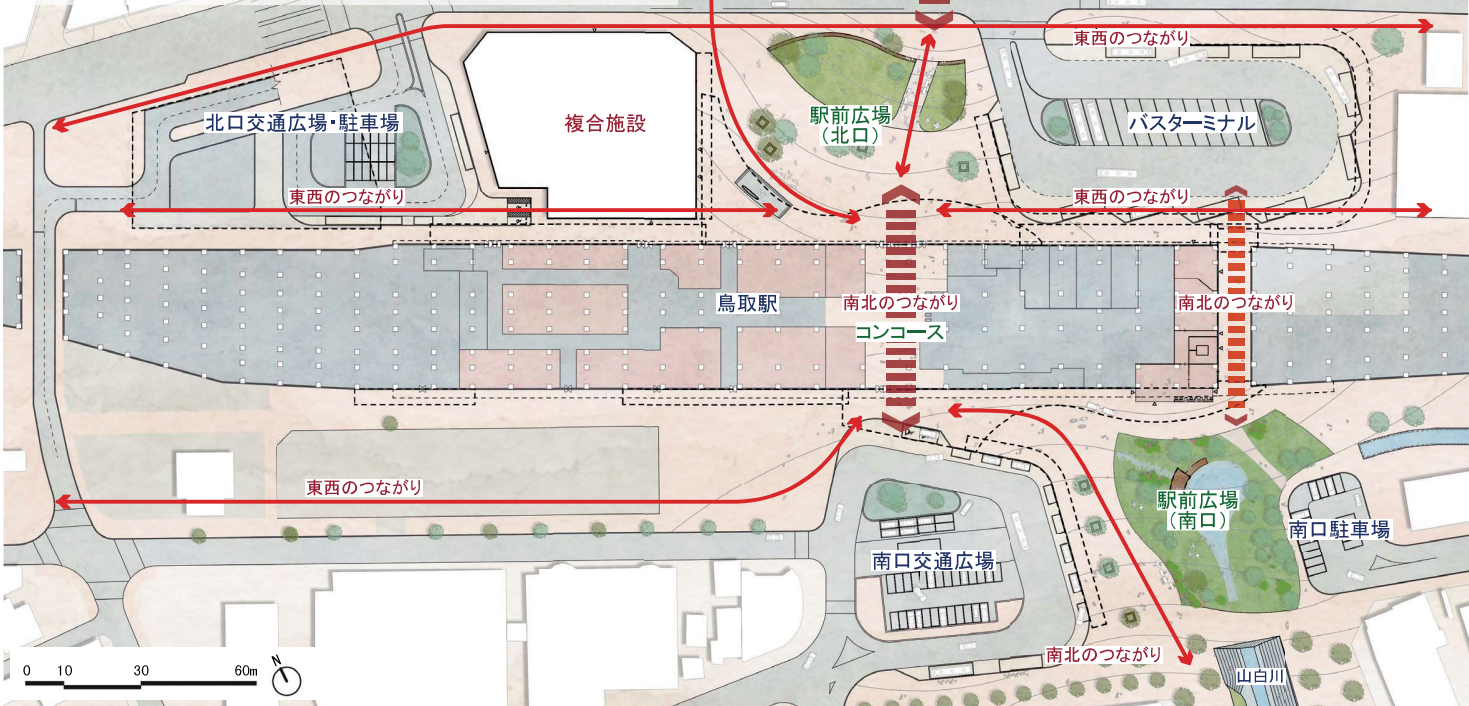
現状の駅まち空間の課題やポテンシャル、目指すべき将来像を踏まえ、3つの視点から駅まち空間の整備方針を定めました。さらに、整備方針およびデザインコンセプトに基づきデザインの考え方と具体的なデザイン方策を設定しています。



6. 駅まち空間平面イメージ

「人中心」を念頭においた本計画においては、より環境空間の占める割合が大きくなるよう、空間の再配分を検討します。

既存の商店街や商業施設が立地する北口広場は、駅を訪れる人にとってのお迎えの空間としてまちへの回遊を促す賑わいの空間を、山白川や鉄道記念物公園が立地する自然豊かな南口広場は日常的な憩いの空間として整備します。



7. 駅前広場等のデザインについて

【北口広場のデザインイメージ】

歩行者動線の交錯を避けつつ、利活用が日常的に行える十分な空間を確保します。活用している様子が駅の顔となるとともに、駅を出たところからまちへの見通しを確保することで、まちへの回遊の期待感を高めます。



【北口広場のイメージ】

【南口広場のデザインイメージ】

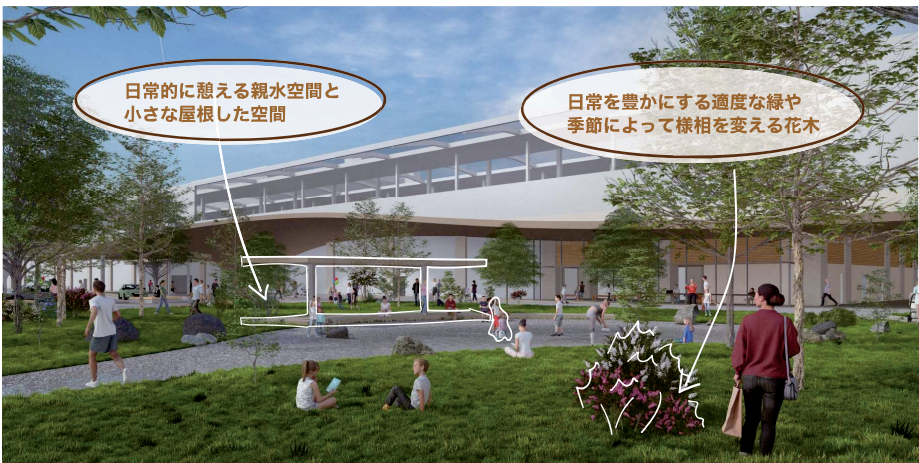
南口広場には親水空間を設け、より身近に自然を感じてもらうとともに、山白川遊歩道への空間的な連続性を創出します。



【南口広場のイメージ】



【北口駅前広場の屋根がまちからの視線を受け止める】

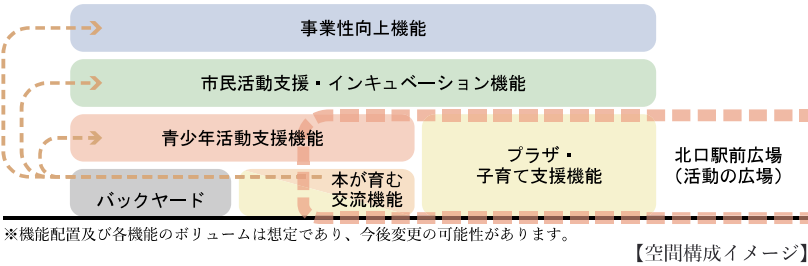


【緑と水の憩いの広場のイメージ】

8. 複合施設のあり方について

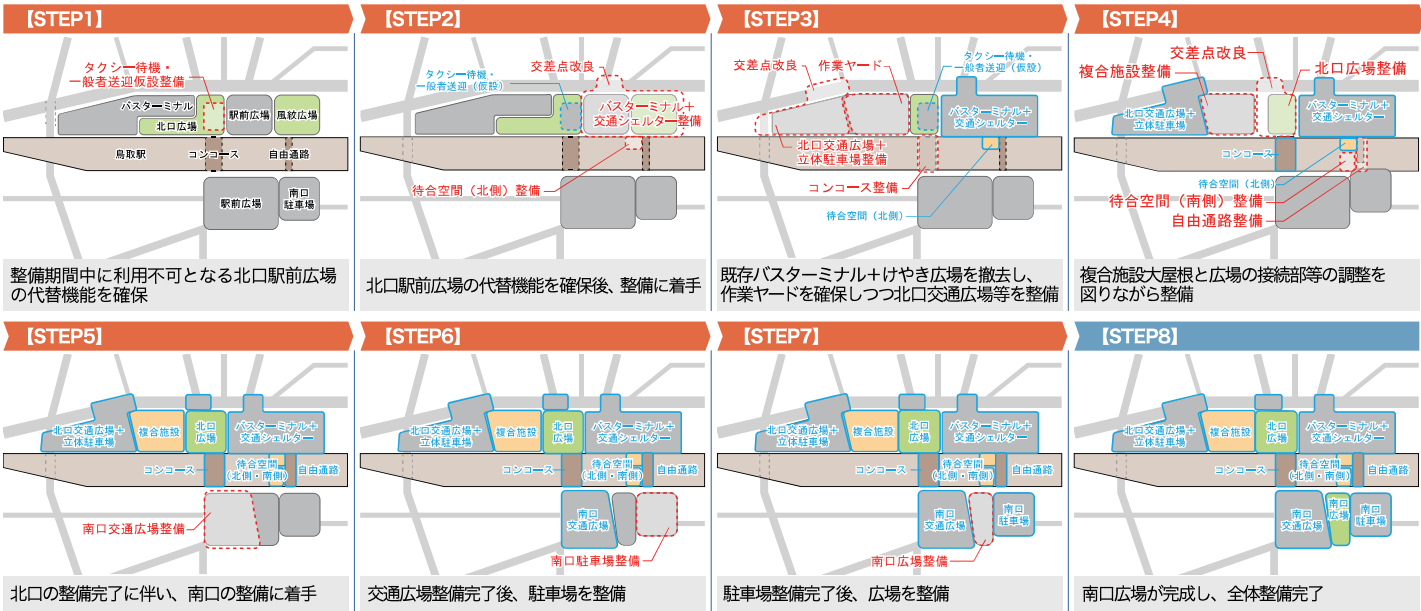
本施設は、従来の枠組みを越えた鳥取ならではの連携を通じて地域社会に貢献する施設を目指します。地方都市だからこそ、幼年期、青年期、成人期、壮年期、セカンドライフ等の人生の様々なシーンを彩る居場所をつくることが重要です。

居場所を形成する各機能が連携し相乗効果を発揮するための媒介装置として、人生の各場面の課題解決・成長・心の安息に寄与する本が育む交流機能が働き、それらの機能に複合施設の事業性向上に資する機能が合体するような機能構成とします。



9. 段階整備計画

鳥取駅は日々多くの人に利用されている交通結節点であることから、整備期間中においても駅周辺の交通等の機能に支障をきたすことがないように、段階的に整備を進める必要があります。



10. 想定スケジュール

駅周辺整備のスケジュールについて、以下を想定しています。

	R8 年度	概ね 1 年後	概ね 2～4 年後	概ね 5～7 年後	概ね 8～12 年後
計画策定・都市計画手続き	整備計画策定	北口都市計画変更	仮設交通広場供用後 バスターミナル着工	南口都市計画変更	
バスターミナル		計画調整・設計	工事	完成	区域確定後設計着手
県道	計画確定後 都市計画変更 計画調整・設計着手	計画調整・設計	工事（各施設に合わせて交差点や歩道を供用開始）		
仮設交通広場		計画調整・設計	工事	仮設交通広場供用	解体
北口駅前広場（交通広場・立体駐車場・北口広場）		計画調整・設計	バスターミナル完成後 北口駅前広場着工	工事（段階整備し、順次供用開始）	完成
複合施設	市民ワークショップ 基本計画策定	複合施設実現化 ワーキンググループ設立	事業者公募・選定等	設計	工事 完成
南口駅前広場（交通広場・駐車場・南口広場）			事業者と契約締結後 設計着手	設計	工事 完成
高架下（コンコース・自由通路・待合空間）			設計	工事（段階整備し、順次供用開始）	完成
立地適正化計画	計画策定	グランド デザイン策定			北口完成後 南口駅前広場着工
中心市街地活性化基本計画（第 5 期）		中心市街地活性化基本計画策定			

11. 事業費について

整備計画の実現に向けては、引き続き効率的・効果的な事業手法を検討するとともに、財源確保を図っていきます。

事業費は将来的な建設コストの高騰を見込んでいますが、あくまで概算であり、今後の整備内容・事業手法によって変更となる場合があります。

また用地費についても未計上であり、取扱については、今後各地権者と協議を進めます。

段階的な整備によって事業費の平準化を検討します。民間整備を見込んだ全体事業費についても今後整理していきます。



【複合施設グランドレベルのイメージ】

概算事業費【公共整備部分】	
施設	事業費（税込）
バスターミナル	22 億円
北口広場	24 億円
北口交通広場	11 億円
県道（地下道の取扱いを除く）	3 億円
複合施設（公共整備分（テナントとして入店））	32 億円
計	92 億円
南口広場	20 億円
南口交通広場	7 億円
南口駐車場	1 億円
計	28 億円
合 計	120 億円